

～ナポレターナ あれこれ Vol.6～

“詠み人知らず”昔の仕事の歌 その1

青木 純



サンタ・ルチアの「卵城」 筆者撮影

庶民の歌であるカンツォーネ・ナポレターナには、色々な職業人や仕事が登場します。未だに変わらず存在する仕事もありますが、特に古いカンツォーネには今は形を変えて存在するもの、すっかり廃れてしまったものなど、昔の庶民の生活が偲ばれる大変興味深い職業人の風俗が色々歌われています。前号に引き続き1800年代までの“詠み人知らず”の歌ばかりをご紹介します。

「Tiramole (ティラモーレ)」

ドニゼッティ作曲のオペラ「愛の妙薬」に、偽医者で偽薬売りのドゥルカマーラという人物が出て来て、主人公の純情な田舎青年に“惚れ薬”と偽って安いワインを高額で売りつけます。当時こうした偽医者・・・というか、そもそも昔は今のように医師の国家試験などというものはなかったワケで、馬車などに乗って村々を回り弁舌巧みに薬を売りつけたり、治療行為をする一種の香具師がいたようですね。ナポレターナにはそんな偽医者「Tiramole (ティラモーレ)」という歌があります。Tira は引っ張るとか抜くこと云う意味で mole はナポリ語で歯(複数形)のこと、つまり歯医者ですね。「愛の妙薬」同様、ユーモアに溢れた楽しいメロディーです。歌詞を見てください。

我が輩は偉いんであ〜る！
我が輩は超一流のドットーレ(医師・博士)なんであ〜る
我が輩を知らば貴殿らは
真に偉大なる人物とはこの方のこと！と言うであろう
我が輩は抜歯のエキスパートであり

その他医学のことならなんだって知っている！
さ〜て、取り出したこの軟膏
貴殿らのあらゆる苦痛を和らげ、歯も生える！
古代より伝わりし本物の塗り薬
何と！信じられぬ事にたったの5ソルディじゃ！

この5ソルディというのが今のお金でいくらくらいだったかは残念ながら知りませんが、きっと庶民には目の玉が飛び出るような値段だったのでしょうか。歌詞はこう続きます・・・

おっと、これは一体どうしたことじゃ？
皆の衆いったい何故に行ってしまうの？！
ハハハ、余りの高さに驚かれたか？！

っというわけでこのTiramole先生、きっとこのあと、嘘のような値引きをしてみせ、タダ同然の薬を売り抜いてまる儲け、あとは野となれ山となれ・・・。

「Lo ciuccio de Cola (ニコラのロバ)」

ナポリのカンツォーネで一番数多く登場するのは間違いなく漁師です。目の前が豊かで美しい海ですから、これは自然なことですね。漁師の歌についてはいずれ又ゆっくりご紹介するとして、漁師と対照的な仕事、お百姓さんの歌もありますよ。今はもうほとんど見ることは出来なくなりましたが、ロバはナポリをはじめ南イタリアの農民に

とって家族のような存在でした。次の曲はこれもユーモラスなメロディーが楽しい「Lo ciuccio de Cola (ニコラのロバ)」です。



筆者が目撃した最初で最後の働くロバ/1978年シチリアで撮影

貧乏なお百姓のニコラさん、彼の唯一の耐久消費財であるロバが酷使に耐えかねたか、お腹が空いて目を回したか、はたまた仮病か？ぼったりと倒れてしまったのでさあ大変！

何てこった！オイラのロバがぶっ倒れた！
死んだら哀れなオイラは一人！！
ア〜ア〜ア〜ア〜 どうすりゃいいのさ ロバが死んだら
ア〜ア〜ア〜ア〜 どうすりゃいいのさ オイラ一人で！
お願い助けてオイラも死にそう
お前が死んだらオイラは破滅！！

と大パニック。そこでニコラさんロバの足や尻尾を引っ張ってみますが埒が明かず・・・

緑の葉っぱを喰わせてやるから
キャベツや人参、レタスもやるぞ！

と普段は干し草しか食べてないようなロバに大ご馳走。これが功を奏して・・・

凄いで！奇跡だ！ロバが動き出した！
息を吹き返した、信じられない！
ア〜ア〜ア〜ア〜 どうなってたことだろ ロバが死んでたら
ア〜ア〜ア〜ア〜 どうなってたことだろ オイラ一人で！

ということでニコラさん、首を吊らずに済んだのでした。めでたしめでたし！

「Marianni (マリアンニ)」

火事と喧嘩は江戸の華！なんていう言葉がありますが、江戸時代の“火消し”は江戸っ子気質(かたぎ)の代表のような、喧嘩っ早くて向こう見ずというイメージがありますね。ナポリにも“火消し”の人達がいたようで、原語では“ポンピエーレ”で、現代語では消防士と訳しますが、この歌が出来た頃日本はまだ江戸時代だったんで“火消し”と呼んでおきましょう。「Marianni (マリアンニ)」という歌が登場します。

火消しの奴らと恋をするなんて！愚かさ！
奴らはペテン師で乱暴者さ！
君を捨てていく、泣くのは君さ！

ちなみに2番では「兵士」も登場。同じくボロクソに言われます。美しい恋人マリアンニにはきつというんなら男達が言い寄ってくるんでしょうね。恋敵を意図的に貶しているものと思われれます。でもメロディーは歌詞の内容とは裏腹に陽気で明るく、そんなマリアンニを笑い飛ばしているかのような楽しい曲です。兵士が登場する歌はこの他にも多いので、いずれ改めて取り上げましょう。

「Zoccolaro (ツォッコラーロ)」

次は“木靴屋”さんの登場です。現代イタリア語でZoccoloはサンダルの事ですが、ナポリでは昔から木靴が愛用されていてこれも同じくZoccoloと呼ばれていました。当時ナポリでは貧しくて靴が買えず、裸足の人も多かったので、木靴はきつとお洒落な履き物だったのだと思います。では木靴屋さんの口上です。

まず冒頭で“Zoccola-ro〜!”と自ら声高らかに名乗りを上げます。そして・・・

木靴はいらないか 綺麗な木靴は
少し高いけど お洒落をしたげりゃ
私の木靴を 買ってはいかか？！
何て素敵なんだ ため息が出るほど
素敵にその足を見せたい人は
みんな履いてる 私の木靴を・・・



「木靴屋」R.ムーロロ/ナポレターナ全集LPジャケットより

という風に自分の商品を売り込みます。ほとんどはその美しさがセールスポイントですが、4番の歌詞ではひと味変わったセールストークになります。

恋をしている人も みんな履いてる
音がしないから こっそりママの
目を盗めるのさ！ うまくいくのさ！

恋をしている若い娘さん達はきっと飛びついたでしょうねえ！

「Raziella (ラツィエッラ)」

若い恋人達が親の目を盗んで愛し合うという情景が描かれている「Raziella (ラツィエッラ)」には、“糸紡ぎ”という手仕事が出て来ます。まず1番。この歌の主人公の若者は、恋人ラツィエッラの家に遊びに来ています。ラツィエッラの父親は留守で、母親代わりの少し耳の遠い伯母さんが居眠りをしている隙に、この若者は拒むそぶりの彼女を抱き寄せ密やかに口づけをします。では2番の歌詞・・・。

綺麗な声であの子は歌い マンドリンで僕は伴させた
甘い声で《私のアニエッロ ずっと貴方を愛し続ける》と
糸紡ぎしていた伯母さんが うとうと居眠りをして
ふと目をふいに覚ませば 何もなかったようなそぶり

こんな日々は長く続かず、3番では若者が彼女に裏切られ、「復讐するか、いや死のうか」と苦悩します。

“珠玉の”という形容詞がありますが、これは正にこの歌のためにあるのだと思います。ではこの歌の特徴がよく分かる歌の終わりの部分を、分かりやすいようにAmの楽譜(原調は半音上のBbm)で見てください。



「ラツィエッラ」メロディ譜 エンディング部分

この部分の冒頭、臨時記号を多用した半音階で、旋律は不安定に推移、不安感を巧みに表現しています。そして3小節目から4小節目にかけてAm～Bb～Amの部分、有名な“ナポリの2度”と呼ばれる独特の和音進行に移ります。本来はとてもエキゾチックな雰囲気を持つ和音進行形ですが、ここでは主人公の激しい心の揺らぎを見事に表現しています。高度な音楽性、精神性を持ったナポリのカンツォーネの真骨頂と言えべき作品です。

【青木 純】

少年時代からカンツォーネに夢中となり、学生時代から歌い始めた。国立音大音楽科卒業後イタリアに3年半留学。留学中ギターを持って歌い歩きテレビや映画等にも出演。帰国後ナポレターナの名曲を自作の訳詞と共に数多く日本に紹介。2005年イタリア大統領より騎士勲章を受章。ベルルスコーニ前首相来日レセプションで独唱。カンツォーネ教室「ラ・フェスタ」主宰。イタリア文化会館、NHKカルチャー横浜ランドマーク校講師。